

## 1 育成世代の目的

---

- ① 子どもたちとそれに関わる全ての人がバスケットボールを通じて元気になる。
- ② 子どもたちがバスケットボールを楽しめ、そして成長できる環境をつくる。
- ③ バスケットボールを通じて、子どもたちの発育発達に応じた人格形成に寄与する。

## 2 育成世代の基本方針（関わる全ての大人たちが行うこと）

---

- ① 安心安全なバスケットボール環境を実現すること。
- ② バスケットボールを子どもたちがのびのびと取り組める環境をつくること。
- ③ 子どもたちが試行錯誤しながら、様々な楽しみを知ることができるようにサポートすること。

## 3 育成世代の目標

---

- ① 大人たちは、健全なバスケットボール環境の在り方について、継続的に話し合う機会を設け、安心安全な暴言暴力のないバスケットボール環境の実現を目指します。
- ② 子どもに関わる全ての大人は育成マインド（後述）を大切にし、行動します。
- ③ 子どもたちのニーズ（競技志向・レクリエーション志向や発達段階など）に合致し、楽しめるプレー環境（リーグ戦方式、プレータイム確保、3×3の活用）を構築します。

## 4 「楽しさ」を大切にしよう

---

「楽しい」からやりたくなるのがスポーツの良さです。試合に勝った嬉しさだけでなく、上手になったと褒められた時、仲間と一緒にプレーしている時、シュートが入った時、ナイスパスが通った時、試合に出られた時など、子どもによって「楽しさ」の感じ方は様々です。試合の勝利だけが子どもにとって唯一の「楽しさ」ではないことを知り、子ども一人一人の「楽しさ」を認め、見守りましょう。

## 5 「勝利」の捉え方を考えよう

---

育成世代では、得点で上回ることだけが「勝利」ではないことを知りましょう。

将来に向けて成長を施される育成年代において、僅かな技術を習得することができた自信の積み重ねや試合に負けたことから立ち直る過程を経験することなどが、その後の人生における大きな「勝利」かもしれません。

## 6 プレイヤー主体で考えてみよう

---

子どもが上手くできないことに対して、大人はできるように手を差し延べたくなります。どこまでサポートしてあげることが、子どもから「楽しさ」を奪わないのでしょうか？ 子どもたちがバスケットボールに取り組んでいる時、自ら考え、主体的に取り組む、「楽しさ」を見出す過程が彼らの成長を促します。子どもたちの主体的な活動を大切にしましょう。

## 7 バスケットボールを通じて、ライフスキルを学ぼう

---

スポーツは、人生を教えてくれると言われています。楽しさだけでなく、うまくいかない挫折も経験できます。また、仲間との人間関係から生まれる絆、チームルールを守ることで身につく規範意識など、人間力を高める様々な経験をすることができます。バスケットボールを通じて社会人になった時に役立つことを多く教えてくれます。

